

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップII
	学部・研究科等名	表象文化学部
	担当教職員名・役職	玉田佳子・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	1
	受入企業等名	有限会社ワックジャパン
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学科科目「英語で案内する京都I, II」等での学びと英語運用能力を土台に、接客(海外からの観光者)対応(日本文化体験の運営、寺社仏閣訪問時の誘導等)の他、ビジネス文書作成や関係者の給与計算等を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学科の専門的な学びがふまかりつつある3年次以上を対象に、夏期休暇期間中の8日間のインターンシップを組み合わせた応用各論科目として実施している。本科目は学科の専門性を生かした上で、京都の文化を実践的に学ぶことを主な目的としている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解(第1回)、実習中の目標設定等を行う(第1回)とともに、企業研究(第2回)や外部講師によるビジネスマナー研修(第1回)、実習中のリスクマネジメント(第2・3回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験と自らの学びがどのように繋がったのかのふりかえりを行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	科目担当教員が実習期間中に実習先を訪問し、学生が作成する日誌も活用しながら、事前指導で設定した各自の目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前課題(実習に対する心構えや実習までに取り組むことについてのレポート)および事後レポートにより、学生が何を学んだか、何が足りなかったかを担当教員が把握し、それを踏まえ、社会人になる前にさらに何が求められるか自らの「気づき」に繋がるような指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	8日間(日曜日を除く)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)		
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	有限会社ワックジャパンにおいて、8日間のインターンシップを行っている。	

要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学・企業双方の立場のインターンシップの意義や目的をすり合わせた上で、互いのニーズに応えられるようにするため、企業と協働してプログラムや日程を組んでいる。また、実習中に科目担当教員が受入企業を訪問して企業代表と面談し、受入れに係る負担感の軽減に努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/representation/english/topics/2017/ii-10.html
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	表象文化学部事務室・文学研究科事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	三浦真由子
	電話番号	075-251-4103
	メールアドレス	eibun-i@dwc.doshisha.ac.jp